

大学生のキャリア意識に関する日中比較

ZHU Lingyu

本研究の目的では、大学生のキャリア意識に関してその実態を日中比較の視点から分析し、今後の中国におけるキャリア教育の方向性を探ることにある。本研究では、これまで日本におけるキャリア教育の現状と成果及び課題を整理した上で、日本のキャリア教育の政策、大学におけるカリキュラム、授業実践、大学生のキャリア意識について、資料及びアンケート調査から実証的な検討を試みる。このような実践的な研究は従来の蓄積が少なく、国際比較を通して中国の大学におけるキャリア教育への示唆を得る点で学術的意義がある。とりわけ本研究で中国大学生のキャリア意識を活かしたキャリア教育の方向性、共生社会の教育など中国での応用可能性を中心に考察することは、労働市場の競争的環境が激化し若者の失業率も高まっている中国社会への一つの処方箋となる点で、実践的意義があると言えるだろう。

先行研究については、まず、中国の大学におけるキャリア教育の現状と中国人大学生のキャリア意識について整理した。その結果、とりわけ中国の大学生(若者)の新規大学卒業者の採用環境の特徴について次の点が明らかになった。

第一に、就職の競争率の激しさが増したことである。計画経済時期の大学と就職先が1対1対応をしていたストライプ型・カタマリ型人材育成制度から、市場経済時期の自由就職への移行がみられる。

第二に、労働市場からの要請(市場経済の人材育成に対する要求)と教育界の要請(素質教育を推進する要求)とのミスマッチがみられた。

一方、日本の大学生(若者)のキャリア意識については主にバブル経済崩壊後のフリーター、ニート現象後の論文から検討した。この日本の大学生の就職状況やキャリア意識をまとめると、次の点が明らかになった。

一つは就職・就業をめぐる環境の激変である。経済のグローバル化の進展によって労働者に求められる資質、能力も大きく変化し、採用において即戦力として働ける人や経験者、中途採用、外部委託の比重が高まった。また、正規雇用から一時的な雇用・非正規雇用への切り替えが広範に行われた。このような動きに伴い、中卒・高卒・大卒を問わず求人が減少し、求職希望と求人希望のギャップの拡大、新規学卒者の職業生活への移行において多くの問題が生じてきた。

二つ目に若者の職業観・勤労観や職業人としての基礎的・基本的な資質・能力をめぐる問題が顕在化し、キャリア教育が登場し、2000年代に入り大学における学術知の獲得とは別に、就職や職業キャリアを見据えた実践的な学びが大学カリキュラムに導入された。

総じて、日中両国の人材採用形式は異なり、労働市場の構造は異なるものの、市場ニーズをますます重視する傾向とグローバル化の傾向は一致していた。そのため、大学生のキャリア意識と価値観について相違点も多くみられたが、両国の間に共通点もいくつか見いだされた。

以上の文献レビューの結果を踏まえ、日中大学生のキャリア意識についてと比較分析を行った。日中の大学生のキャリア意識の分析結果は以下のようにまとめることができる。

第一に、日本人学生より中国人学生のリーダーになりたい挑戦志向やグローバル志向が高いが、日中ともにリスクの高い挑戦より安定した仕事を選ぶ傾向がある。また、職業人生観を見る限り、中国人学生よりも日本人学生の方がキャリア観の一貫性が弱く、やや不安定な傾向があるといえる。

第二に、1回は転職を考えてはいるものの、基本的にはずっと同じ会社に勤め続けたいというキャリア志向は、中国より日本人学生の方が強い傾向がみられた。専業主婦志向は中国ではほとんどみられないが、日本人学生には一定数、専業主婦志向が存在し、M字型雇用のキャリア志向は中国よりも強いことが確認できた。

第三に、中国人学生がキャリアに挑戦するほど、他人、自然、人生意味の追求への関心が低下する傾向が読み取れる。中国の学生の多くは自ら職業キャリアを決断する傾向がみられる一方、一部の中国の大学生は他者を受容する寛容性を保ちながら、人生を送る共生志向が弱いことが確認された。

第四に、中国人学生は共生志向が見られる一方、挑戦的志向性も強い傾向があるといえる。特に学年が2年生から4年生に上がるにつれて、挑戦型のタイプが有意に増加する。中国の大学生は労働市場において勝ち抜くための競争原理の中で学生生活を送っている現状があることからキャリア挑戦性が強く、共生志向が弱い人は大学生活が充実していると感じることが分かった。

以上の日中大学生のキャリア意識に関する先行研究やデータの分析結果を見る限り、近年、日本人学生の職業的キャリア意識において、「私生活優先主義」が強まってきていることが確認できた。日本においてはグローバルな世界観でバリバリ働くようなワークスタイルや、起業を志すようなキャリアの上昇志向ではなく、どちらかと言えば「キャリアの安定志向」が強まっていると言えるだろう。一方、中国の大学生も私生活優先主義は強まっており、最近の新聞や世論調査を見てもワークライフバランスを考慮して、安易に転職する志向は一定程度みられる。そのため、中国の大学生のキャリアの挑戦性は低いことが予想されたが、本論の分析結果を見ると、挑戦的志向は日本よりも中国の学生の方が有意に強い傾向がみられた。つまり、一般的には中国人大学生のキャリア意識は私生活優先主義と言われるのだが、実際は、キャリアの上昇志向は日本よりも強いといえるだろう。

以上が、日中の大学生のキャリア意識の実態であるが、これを踏まえていくつかの考察を行い、今後の中国の大学におけるキャリア教育について示唆を得る。